

二〇二二年七月三〇日

流木に翹立て休む川蜻蛉	愛正
犬散歩蚊遣火腰にぶらさげて	むべ
遠雷や重きペダルに変速す	むべ
夕闇に蚊遣り煙の這ふ三和土	愛正
油虫押さへて猫の目は爛々	素秀
蚤の市三尺寝して店主暇	ぽんこ
本伏せてまぶた閉づれば蝉時雨	よう子
鎮守の杜ただに激しき蝉しぐれ	はく子
蝉しぐれ子と夫の忌を修しけり	はく子
黙として酷暑に耐ふる力石	ぽんこ
補助輪の取れてどや顔日焼の子	かかし
滴りや昼なほ暗き杉美林	わかば
縄模様力士浴衣の颯爽と	素秀
八寸の彩り豊か夏料理	はく子
夕立去り竿に数珠なす雨滴かな	はく子
峠茶屋ポンと音させラムネ玉	かかし

毎週句会秀句・みのる選・二〇二二年七月三二日